

第8回千葉活性化サロン

テーマ「東京2020オリ・パラから千葉の活性化へ～レガシーの活用～」

◇ 令和元年6月4日開催

◇ ゲストスピーカー 水野 創 株式会社ちばぎん総合研究所 取締役社長

「東京2020オリ・パラから千葉の活性化へ～レガシーの活用～」講演概要

1. オリ・パラ成功のための経済界の取組みについて

- オリンピック・パラリンピックの成功の条件は、第1にオリンピックだけでなくパラリンピックのチケットも完売して会場が満員になるようにすること。第2に、千葉県をパラスポーツ、サーフィンの聖地として大会後も多くの選手やお客さんを迎えることでレガシーを残すこと。第3に、選手や観客に県内各地を楽しんでもらえる環境を整備すること、つまり経済界の観点から言えば県内各地の売上が拡大し経済発展につながるということが成功の条件。
- 千葉県民1,000人を対象に実施した意識調査では、県内で行われる8競技のうちサーフィン以外の7競技(うち4競技はパラリンピック)への認知度は1割程度と低い。チケットについても同様に、パラリンピックの販売時期への認知度は3割程度。そこで、県内の機運醸成のため、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」に新しく「スポーツを応援するチーバくん」のデザインを作成。認知度1割未満と低いが、オール千葉で応援する機運を高めることを目的に、県内企業・団体等で「千葉県を応援チーバくんでいっぱいにする運動」を行い、県民が関心を持つためのきっかけ作りをしている。具体的には、社用車にチーバくんのステッカーを貼る、ホームページにバナーを設置する、「のぼり」を設置するなど。

2. まちづくりへのレガシーの活用

- 9月に予定されているゴールボール(視覚障がい者のパラリンピック競技)のテストイベントでは、十分な集客が見込めるか、会場までの経路においてバリアフリー対策が十分になされているか等を確認できる絶好の機会なので、成功させるべく準備を始めている。千葉市を障がい者スポーツの聖地にしたい。
- 千葉駅周辺は、2016年11月のエキナカオープン、2018年6月の駅ビル全面オープンに伴い、滞在人口は5%超増加しており、その後高水準で推移している。この傾向は平日よりも休日、男性よりも女性に顕著。そごう周辺エリアについても、同様の傾向がみられる。一方、旧パルコ周辺については、滞在人口が減少する一方だったが、ここに来て下げ止まりから増加に転じている。定着するか注目したい。レガシー活用にあたってはポートアリーナを含む千葉駅周辺一帯で考える必要があり、今後のまちづくりの動向を注視したい。
- 千葉市では、美術館やスポーツを核とした特徴ある文化を作ることにより駅周辺に回遊性を高め、まちなか居住を進めようとしている。また、千葉県では、外国人児童の受け入れ体制の充実、交通道路ネットワークによる首都圏一体化、成田空港機能強化による内外の一体化が進んでいる。こうした環境の変化を経済に活かすためには、オリンピック・パラリンピックのレガシーをうまく取り込みながら新しい地域の魅力(ブランド力)を生み出していくことが重要。